



スコーレフレンズ

家族の力、育てよう
SCHOLE FRIENDS

生きる道に
正解も失敗もない



『スタート』学習の活用

SPRING 2026 No. **30**

インド刺繍・カンタ作家 麻生 恵さんに聞く

間口を広く、 家族の可能性を広げる 環境づくり

インドの家庭に古くから伝わる
針仕事「カンタ」の作家、麻生
恵さん。日本のカンタの第一人
者でいらした母、望月真理さん
のこと、建築家の息子の麻生純
さんとのイギリスの日々につい
てお話を伺いました。

母のおかげで本好きに

私が母に一番感謝しているの
は本を与えてくれたこと、と話

す麻生さん。

「周りの友達のおこずかいが月
月1000円だったとき、私は
たった300円でした。ただし、
駅前の本屋さんだけはツケ買い
してよかった。どんなに高価な
本でも、どんなにたくさん買っ
ても許されました」

中学、高校と往復3時間かけ
て都内の進学校に通っていた麻
生さん。6年間の通学時間に、

ドストエフスキー、カフカ、横
溝正史……、むさぼるように読
んだそうです。

「幼いころは毎晩寝る前に読み
聞かせをしてくれました。さら
に、これを読みなさい、と手渡
すことはないのですが、母はさ
りげなく私のそばに本を置いて
いました。開くとむずかしい漢
字には母の字で、すべてふりが
ながふつてある。だから自分だ
けでどんどん読み進めることが
できたのです。全部、母の狙い
通りでしたね」

読書は、知識はもちろん、人
の心や社会情勢を読む「読解力」
を養ってくれたそう。

「それは今も間違いなく私の助
けになっています。だから私も

母にならない、息子が幼いころは毎晩枕元で読んで聞かせていましたね」

未知の土地、イギリスでの子育て

麻生さん一家は、ご主人の仕事で、純さんが10歳の時にイギリスに渡りました。駐在が決まった時、まず麻生さんは日本人学校にスクールバスで通えるぎりぎりの地域に家を見つけてくれるようご主人に頼みました。「せっかくだから現地の学校に行ってほしいというのはありません。でも無理やり行かせるのは子どもにとってよくないですから、現地校に合わなかった時には日本人学校に移れるようにしておきたかったです」

子育てが終わった今はカンタに夢中。「刺すのが楽しくて、やめられないほど。なので、早起きしてカンタを刺し、朝9時には終わりにすると決めています」

学校のことは決めずにイギリスに渡ったので、ぽっかりと空白ができました。こんな何もな時間ができることなんて、長

い人生でもそんなになんと思いい、純さんを連れてロンドンを遊び回ったといいます。そのうち純さんが英語が話せないストレス





上：着古した布を何枚も重ね、全面に模様や細かな地縫いを施して布を補強したのがカンタ。ガーデンデザイナーのルーツを持つ麻生さんらしいジオラマのような作品。
左：白地に白糸を刺した麻生さんの作品。近年は身にまとうというカンタの新しい魅力を伝えている。



で体調を崩してしまいます。それだったらと日本人学校に通うことに。しかし、バスで往復2時間かけて通う日本人学校は、次第に純さんにとっておもしろくない所になってきました。それで現地の学校探しを始めました。夫の会社に教育アドバイザーを紹介してもらい、彼女と一緒に薦める小学校をいくつも回りました。けれど、どの学校も息子が楽しく過ごす姿が想像できないところばかり。教育アドバイザーに厳しく詰め寄り、ようやく候補として挙げてきたのが私立の小さな学校。そこがとてもよかったといえます。「その学校の子どもたちは明るくやさしい目をしていたので

す。この子たちは黄色人種の子をいじめないだろうと直感しました」

後でわかったことですが、その学校は大変由緒ある学校。パブリックスクールにもつながっていて、純さんは麻生さん夫婦が帰国した後も、卒業するまでパブリックスクールの寄宿舎で過ごしました。

「息子のために私が心がけてきたことは、例えば現地校、日本人学校と私だけが決めずに、間口を広く構えて、可能性を広く考えること。広い世界で子ども自身が進む道を決めていけばいい、親も子も経験してみなければわからない、そう思ってたきました」

生きる道には正解も、失敗もない

自分自身の学び

「イギリスに行く前にイランに駐在していたのですが、その時、女性から見たイランの風習や芸術について深く知りたいと思っていました。ところが、政治の情勢で、駐在1年で急遽日本に帰ることに。こちらの意志とは別に、生活が変えられてしまうことを思い知らされました」

イギリスの駐在予定は6年。イランの時のように急に帰国が決まることもあります。この経験から、麻生さんは純さんの学校探しと並行して、自分の学び

も模索しました。そして、もともデザインが好きだった麻生さんはガーデンデザインの学校に通いディプロマ(専門資格)を取得します。帰国後はガーデンデザイナーに。その後、母であるカンタ作家の望月真理さんを手伝うことになったそう。

「カンタは一言でいうと自由。図案もないので、正解もないし、失敗もないのです」

今では、麻生さんらしい新しいカンタの作品を発表しています。

「デジタル化が急速に進み、自分たちが経験していないことに

子どもたちが向き合っているのですから、いまのお母さんやお父さんは不安ですよ。でも、私たちもそうでした。イギリスという未知の土地でどう生活していくか。何が正解かまったくわかりませんでした。最近思うのが、カンタも同じなんです。正解はないし、失敗もない。だからおもしろいのです。完成形を描きすぎない、それが大切だと思います」

麻生 恵 ●あそう・めぐみ

カンタ作家。「望月真理と仲間たち」主宰。ガーデンデザイナーの活動と同時に、母・望月真理のカンタ創作と教室の活動をサポート。現在は、カンタの教室とワークショップを開催している。2月に初の著書『はじめての新しいカンタ(文化出版局)』を出版。基本の刺し方から暮らしの中で使えるアイテムの作り方までわかりやすく紹介。インスタグラム@kantha_mari_nakama

明るい家庭・笑顔の子育てを応援 温かなコミュニケーションが学びを支える

スコレ協会の各地区では子育て中のお母さんたちが集いやすく、居心地のいい学びの場をつくりながら、家庭教育講座やセミナーなどを行っています。

ここ群馬地区前橋市では一〇三月、地区責任者・生方亜由美さんが講師を務める家庭教育セミナーを開催し、乳幼児から中・高校生の子どもを持つお母さん方を中心とする参加者が、子育てに大切なポイント”を学んできました。

「スコレのセミナーを、子育て中のお母さんが気軽に足を運ぶことができ、『ここに来れば仲間がいる』と思ってもらえる場所にしたいと願って活動が続けています」

生方さんをはじめとする先輩スコレ会員は、参加者への声かけや親身な対話とともに一人一

人へのきめ細かなフォローアップを続けてきました。近年、子育て世代の会員が増加傾向にあるこの地区では、毎月、多彩なテーマで実施している子育てセミナーにも多くの参加者を集めています。

「まず、『よく来てくれたね』と話しかけ、『学んだことを実際にやってみました』『こんな気づきがありました』という報告に、『がんばっているね』『すごいね』と応じる対面のコミュニケーションを大切にしながら、子育て世代のお母さんがホッとできる居場所づくりを心がけてきました」

また、日常生活や家族とのふれあいの中から小さな幸せを見つけるのが『スタート』学習プログラム。これを活用して、紙のアンケートや



群馬地区責任者・生方
亜由美さん。



スコアの『スタート』学習は冊子でもアプリでも
チャレンジ可能。



スマホでできる「オンライン学習アプリ(公式アプリ)」



どの地区の会場でも子育て世代の参加者が気軽に足を運べる温かな居場所。

ワークブック（ワーク1〜5）、スマホでできる「オンライン学習アプリ（公式アプリ）」に取り組んでおり、新しい会員への丁寧なメッセージやフォローも行なっています。

「素晴らしいプログラムを利用して、新しく学び始める会員にスコアの学びの良さを感じて

もらい、長く学び続けていくモチベーションをサポートしたいと思っています。開発していたアプリは、特に若い方々にとって、より手軽に『スタート』学習に取り組みやすいツールになっているのではないのでしょうか」

経験豊かな講師の話や先輩との交流の中で家庭や子育ての悩みに役立つ貴重なヒントをもらい、同じ世代の仲間に出会える温かな拠点づくりを続けてきた活動は、着実な広がりを見せています。

「スコアと一緒に学ぶ仲間が、明るく楽しい家庭で、笑顔の子育てをしていくための多くの気づきが得られるように、しっかり応援していきたいと考えています」

妹をいじめる長女

Q 3歳の長女は1歳の妹をよくいじめたり、物を投げたりします。長女の行動が気になり、口うるさい私です。長女を受け入れることができません。



プラスの言葉で包み込む

いつも一緒だったお母さんが、いまは小さい妹のお世話ばかり。かまってもらえないお姉ちゃんは、悲しくさびしい気持ちでいっぱいなのでしょう。

そんななか、ご長女の抱っここのお願いに、「お姉ちゃんだから我慢してね」と返していませんか？ さらに、「おっぱいをあげているから待ってね」「寝ているから静かにね」「ちゃんとご飯食べて」「早くしなさい」。このようなお母さんからの注意や叱咤が、ご長女のストレスになっているのではないのでしょうか。

お姉ちゃんといってもまだ3歳。ちょうど第1反抗期といわれる年齢です。なのに、甘えたいお母さんの腕の中にはいつも妹が。満たされない気持ちのはけ口として妹をいじめたり、物を投げるなどして、「ねえお母さん、わたしを見て」と、自身の存在をアピールしているのです。

ご長女のメッセージに共感して、「妹を抱っこしてくれるの？ お母さん助かるわ」「お姉ちゃんはやさしいね」「いつも遊んでくれてありがとう」と、プラスの言葉で包んで、お母さんの笑顔でいっぱい抱きしめてください。妹思いのやさしいお姉ちゃんに成長するでしょう。

 公益社団法人 スコーレ家庭教育振興協会 

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺4-37-17

Tel. 042-707-4500 Fax. 042-707-4505

<https://schole.org/>

スコーレ 



イラスト 木下綾乃

デザイン 株式会社アレマ

印刷 株式会社文伸